

実現プロセス、運営・活動の実態からみた小中一貫・連携教育校の評価

建築計画分野 宮武 希実

小中一貫・連携教育の活動は、各学校の実態や立地条件等に合わせて行われることとなるが、交流活動や授業の実施等、児童・生徒や教員の学校間の移動が多くなることから、施設の形態とも大きな関わりがあるが、施設計画と実現までのプロセスから、運営・活動、影響の実態までを明らかにした研究は未だ無い。本研究では、それを明らかにした上で、評価を行い、今後の方向性を見出すことを目的としている。

小中一貫・連携教育校は、時代背景に上手く噛み合っていると見え、特に統廃合が関係する際には、小中一貫校を付加価値として用いることで合意を得易いが、導入後、元々の活動の違いから不都合が生じる。既存校舎を活かしたままでも、小学校の教員と中学校の教員が、児童生徒の情報共有によりお互いにコミュニケーションを図ることに关しては意義があり、より良い連携の関係が築ける可能性がある。

1. 研究の背景及び目的

新しい義務教育学校の形として、公立小中一貫・連携教育校の取り組みが始められている。施設一体型、小・中学校の施設が離れている施設分離型に大きく大別されるが、その実態は多種多様である。主に、中学に入り不登校等が急増する「中1ギャップ」の解消が目的とされているが、中高一貫の「中等教育学校」の様に学校教育法で定められた学校ではないため、法的には「小中一貫校」という学校は存在しない。小中一貫・連携教育を実施している自治体、施設一体型小中一貫校設置、施設分離型で施設一体型と同等な組織運営を実施している自治体、これは共に増加傾向にあり、小中一貫・連携教育校は更に増加が見込まれている。

小中一貫教育の活動は、各学校の実態や立地条件等に合わせて行われることとなるが、小・中学生の交流活動や小・中学校教員の他校種での授業の実施等、児童・生徒や教員の学校間の移動が多くなることから、施設の形態とも大きな関わりがある。

本研究では、前述の内容を踏まえ、小中一貫・連携教育校を行っている学校を形態毎に分類し、以下3点に焦点を当てる。

第一に、小中一貫・連携教育校を設置している自治体の、導入段階から実現までのプロセスを把握し、特性を明らかにする。第二に、小中一貫・連携教育校の運営、活動の実態を明らかにする。第三に、小中一貫・連携教育校の影響と変容について明らかにする。これらを踏まえた上で、小中一貫・連携教育校の評価し、小中一貫・連携教育校の今後の方向性を見出すことを目的としている。

2. 調査概要

各学校の立地条件、施設・連携の形態が異なる各学校を、大きく①施設一体型の小中一貫校、②小中一貫カリキュラムを行う施設分離型の小中一貫校、③小中連携教育を行う施設別の小・中学校、といった3タイプに分類し、事前に行った各自治体への電話ヒアリング調査によって実態調査を行い、最終的に現地ヒアリング調査対象校8校を選出した。

研究方法は各校の設置、運営に携わった教育委員会、学校関係者への現地ヒアリング調査によって進め、現地ヒアリング調査の了承を得られなかったが、教育委員会に対する現地ヒアリング調査を行えたA-Siについては補足として実現プロセス段階のみ対象に含んでいる。M-To教育委員会については、学校側への現地ヒアリング調査のみで進め(表1)、可能な限りでアンケート調査の承諾を得たFu市のF-Fu、F-FuMについても、アンケート回答を載せている。

表3に各調査対象校の概要を示す。その形態には、上記の3つの類型、①施設一体型の小中一貫校、②小中一貫カリキュラムを行う施設分離型の小中一貫校、③小中連携教育を行う施設別の小・中学校、に分類したが、それを更に調査対象校を選出した後、運営、形態の違いについて整理している。

表1 現地ヒアリング調査対象

学校名	学校	教育委員会
S-It	統括副校長(1)	教育施設調整担当(3)
M-To	教頭(1)	
A-Si		教育改革推進係(2)、学校改築係(2)
A-Ok	副校長(1)	
N-Ta	校長(1)、副校長(1)、教諭(1)	
N-He	校長(1)	学校教育課(1)、N-Ta小中学校・元校長(1)
N-Mi	校長(1) ※N-Tom・元校長	
K-Kk	教頭(1)	学校指導課(1)、K-Go小学校・元校長(1)
M-Nu	小学校校長(1)、中学校校長(1)	学校教育課(2)

3. 小中一貫・連携教育校における実現プロセスの特性

1) 小中一貫・連携教育校検討の背景 小中一貫・連携教育校には、流行的側面があり(表2<1><2>)、自治体や学校の目玉となる為に導入する背景があり<3><4>、更に地域や学校の活性化に繋がるという期待も持っている<5>。実際に宣伝効果も伺え、問い合わせや引越<6>、他学区から通う児童生徒があり<7>、小中一貫・連携教育が学校を選ぶ1つの要因となると言える<8>。一方、地域の活性化としては良いが、小中一貫校を「売り」に広告を出すという動きもあり<9-11>、それが都市中心部の学校においては、更なる人数増加の原因になり、公立学校であるが故の苦しみや<12><13>、学区内に住む地域、保護者に不安や混乱を生じさせている<14>。更に、周囲の学校への影響も出る<15>。

2) 小中一貫・連携教育校設置の発端 施設一体型設置には、学校自体の改築時期と重なっている場合や(表4<1>)、改築時期と重なっている場合分離型のOkでも一体化の計画がある。財政面の効率化<2-5>、児童生徒数の減少による統廃合<6><7>、またマンモス校の解消<8>という側面がある。施設一体型の設置方法の実態としては、統廃合の方法と大差が見られず、同校種間の横の統合であるか、異校種間の縦の統合であるかの違いであるとも言える。

3) 設置の条件 統合により、小学校区を単位として行われていた地域活動が統一される<9>、地域で行っていた運動会が無くなるということも生じている<10>。特に小学校区と中学校区が異なる場合は、地域活動の衰

退が顕著に現れる<11>。学校毎に動いている組織や運営も上手く行かない<12>、統合による通学距離増大の懸念等<13>、統合によって、小学校区を単位として行われていた地域活動が衰退してしまう危うさを孕み、このことから、小規模校も大規模校も、学区が一致している場合に検討され易いということが言える<14-16>。それに加え、元々の校舎同士の距離が近い<17>、2つの小学校の場合でも、学区が狭く連携し易い<18-20>といったことに加え、元々地域として行い易い<21>、学校同士が連携していた<22><23>ということも対象校に選ばれる要因である。こうして、元々の素地があったところ<24>、地元調整を行い易いところ<25><26>を、まずはモデルケースとして選ぶ特性がある。

表2 実現プロセスの特性

小中一貫・連携教育校検討の背景	■ 検討の背景 ■	■ 宣伝としての使用 ■
<ul style="list-style-type: none"> <1>小中一貫校というのがブームが始まって。(Tc教頭) <2>他の自治体でも小中一貫校が進んでいったというので、品川でも全く同じ時期に、日野学園を建てているので、真似たという感じがするんですけど、小中一貫教育が全国的に広がり始めているという事で始めた。(A-O教委) <3>人を集めるには目玉がある。もう一つにせざるをえんやろと経費の面で言うと、それやたら今の流れで言う一貫校にしよと、一体型がええやろと、イコール「売り」にもなる。(Tc教頭) <4>宣伝するからね。自治体にとってはね。(Ta校長) <5>過疎化しているところもあるだろうけれど、小中一貫で目玉を作りつつ、地域の活性化やね。(M校長) 	<ul style="list-style-type: none"> <9>不動産のパンフレットには小中一貫校って出ますよね。(Kc教委) <10>新築住宅も伊藤学園学区とか言って、チラシ出すんですよ。ここに住めば入れるから絶対。(R副校長) <11>御所南校区、御池中学校区、って書く、一瞬にして売れます。即日売完です。だからそれでどんでんねえ、人が増える。(Kc教頭) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公立学校の苦しさ ■ <12>良い学校というイメージづくりを今成功してるとどうなるか。集まる。でも、公立学校の、苦しさ、学区に入ってきた人を全部、公立学校は切れませんから。どうしよう、もし増えたらどうしよう。(R副校長) <13>一応公立の中学校で、まあその選択制でもなんでもないので、とりあえず校区にお住まいの方については全員受けなくちゃいけない。本当にね、制限がね、加えられたら一番良いんですけど、それは、あまりにも難しい。うちの学校がたいごとも多いでしょうね。(Kc教頭) <14>数が増えるってことは、それによって色んな不安も。それこそ今年からは先着順から早くかないと入れないとか、デマも平気で流れたり。今年からは御池通りの南側は違う学校らしいよとか、もうすごいですよ。もう試験があるよとか。人数が増えと、地域の中でも色んなね。(Kc教委) <15>周りの学校への影響はありますよね。だってここに来れば他は減りますよね。(R副校長)
<ul style="list-style-type: none"> ■ 宣伝効果 ■ <6>TaもそうでしたけどTaの場合も、是非家を建ててまで移り住んで、一貫教育を受けたいって希望されて、問い合わせされてるところもあるんですよ。(N-Ta教委) <7>HPをご覧になって、すぐ教育マシじゃないですけども、そういう方は、是非入りたいっていうのはありますよね。で「ナイター」に通ってくるっていう子も。(Ok校長) <8>よく施設一体型やったらね、「小中一貫教育をしている学校はありますか」という問い合わせがやっぱりあるんですよ。転居する1つの条件として「そういうことあったらここへ行きましょ」と。そうすると、少子化率がちょっとでも上がっていきよ。そういう効果を狙ってるのかな。(He校長) 		

表3 調査対象校の概要

施設形態 教育形態 学校名	一体			
	It	To	Ta	Nu
形態図				
所在地	東京都品川区	大阪府箕面市	奈良県奈良市	兵庫県南あわじ市
児童生徒・学級数 *1	1197人・33学級	166人・10学級	80人・11学級	小：31人・4学級 中：24人・3学級
開校年	2007年	2008年	2006年	2005年
学年区分	4-3-2制	4-3-2制	4-3-2制	6-3制
敷地面積	11,480㎡	35,547㎡	38,585㎡	2,438㎡(小)、3,301㎡(中)
階数	地下2階・地上5階	地上2階	地上3階	地上3階(小)、地上4階(中)
整備手法	新築	新築	既存改修	既存
施設形態 教育形態 学校名	分離(半一体)		分離	
	Ok	Kk	He	Mi
形態図				
所在地	東京都足立区	京都府京都市	奈良県奈良市	奈良県奈良市
児童生徒・学級数	803人・24学級	小6~中：889人・27学級	小：236人・10学級、404人・14学級 中：366人・11学級	小：593人・19学級 中：311人・9学級
開校年	2006年	2006(2007)年	2008年	2008年
学年区分	4-3-2制	5-4制	4-3-2制	4-3-2制
敷地面積	-	8,387㎡	-	-
階数	地上3階(小)、地上4階(中)	地下1階、地上7階	-	-
整備手法	既存	新築(6~9)、既存	既存	既存

注釈：*1) 特別支援学級は含まれていない。特記が無い限り2010.5.1時点の数を表す。

度に行う、②一学年の部分参加(表8<1><2>)、③従来通り、の3タイプに分かれた。6年生だけ参加している2つの小学校と1つの中学校の連携であるKk、Heの6年生は、運動会、卒業式、入学式の際に<3>、移動の負担が生じる。元々が小規模校であったり、地域性から運動会を合同で行っていたところ以外では、自然に行えているとは言い難く、小中一貫・連携校になったことをきっかけに立地に関係なく行っている為に、問題が生じる。規模の大きい学校では、人数面から日常的に実際の交流はあまり行えておらず、運動会を学校全体で行おうとすると問題が生じる。完全な施設一体型では無くても、ただでさえグラウンドが狭く人数の多い学校で小学校6年生も参加する為に問題が生じる<4>。本来行わなくてはならないことが出来なくなるといったことへの危機感も感じている<5><6>。こうしたことから、人数の多い学校よりも人数が少ない場合に合同で行うことが現実的であると言え、制限が加わると小中一貫自体の意義も見失う可能性がある。また、施設一体型で無い学校の場合に、合同で行事を行う際の調整の困難や、6年生を中学校の運動会に参加させようとする場合の不都合が生じる<7><8>。2つの小学校と1つの中学校の連携の場合は、更に日程調整に困難を極めるが<9-11>、全学年で移動を行おうとする場合に困難が生じる<12><13>。小学校と中学校の元々の運動会の性格の違い<14>、人数的、距離的条件が合わなければ、元々の文化の違いもあり、小学校と中学校で合同で行うことには、色々と無理が生じてくると言える。

3) 小中一貫・連携教育校の学習活動内における特性

小学生と中学生が同じ校舎で生活している場合、時程を合わせている例があるが、小学生と中学生の元々の活動の違いから、それに対する不都合も生じる(図1)。

表8. 運営・活動の特性

小中一貫・連携教育校の運営・活動	
<p>■合同行事■</p> <p>①元々小学校は運動会あるし、小学校の運動会には6年生はそれぞれ戻って、そこに参加してやります。で、中学校の運動会にも6年生は参加していきます。(Kk教頭)</p> <p>②6年生だけは平日の日に中学校の体育大会に参加して帰ります。一緒にやっていますよ競技を。ポーン持って競技をするとかね、綱引きをするとかね、学校の応援合戦と一緒に見学するとかね。(He校長)</p> <p>③6年生の卒業式は小学校の校舎で戻ってやってたんですけど、昨年度から中学校の校舎でやっています。56年生は向こうの校舎で生活しているので、自然かなあって、でもそこでまた入学式をするので、不思議なんですけど。それまではこちらに戻ってきて、卒業式の時はそこへ帰るっていうかたちで、また新たにここで入学式。(Ok副校長)</p> <p>④グラウンドが狭いので、これで運動会すると、目いっぱい人が入ってしまって、保護者がグラウンドで見れない。ですのあの階段のところに、すずなりなられるか、それとかこいところを開放してこっから見てもらう。(Kk教頭)</p> <p>⑤中学校への参加せなあかんから、その分、中学校の行事の練習もななくちゃいけないので、本来やらなちゃいけないものを開放してしまふようなのは具合悪いからそれも考えなくちゃいけないっていうことはある。(Kk教頭)</p> <p>⑥体育大会とか校舎から観覧するのとかやったら別にしといてほしいかなあ。絶対そうやと思う。(M校長)</p> <p>⑦中学校の体育大会に、小学生と一緒に合同競技をしますよ。まじうとなあね、2つの小学校あって、中学校あるんですよ。なら年間の行事予定どこの学校も作ってます。それをいじらなあかんんですよ。で、いじるとなると、元々あった行事を、変えなあかんんですよ。(He校長)</p> <p>⑧午後の子供たちが来るようになって競技を、午後にする言ふことは、中学校の元々あった競技を、削らなあかんんですよ。で、元々中学校の体育大会やから一緒にするっていうわけにはいかなあもんね。(He校長)</p>	<p>⑨ 去年上手くいかなかったんは、その日はなんか空けられたんですよ。だけど次の日、雨降った次の日。こっちはもう、遠足が入ってる。社会見学。来れないで、こっちは入ってない。来れる。でもこっちは小学校だけ来てというわけにはいかんでしょ。だから今年は予備日も入れて3日取ってある。3日間空けさせます。小学校。違うところへ行きなさい。そうすると、3日間のうちまあ3日あったら、どれかは出来るやろうと。(He校長)</p> <p>⑩ 土曜日日曜日にして、小学校6年生だけが来てるから、月曜日休みにしても良いわけね。というようにのが、起こってくる。(He校長)</p> <p>⑪ 難しいのは、小学校の場合はその1学年だけというわけにはいかんんですよ。というのは兄弟関係あるんですよ。あーこの日も、今までやったら休み必要なかったのに、上の子の為に、休まなんよとか、そういうようなことが生じてきて、マイナスになっていったら何もならんわ。(He校長)</p> <p>⑫ 皆で全校でやる集会とかあるんですね。大移動ですよ。子供たちが。それで雨で降った大変な騒ぎになるんですよ。学園祭と運動会も一緒にやるんですけど、西学校の校庭が広いので、そっでやるんですけど、学園祭なんて衣装来て、移動するわけですよ。それを行ったり来たりね、それを100人近い、越える学年もあるけど。移動する。往復するだけで20分はかかりますよ。やっぱ授業の中の20分は移動時間になってしまう。もったいないじゃないですか。(Ok副校長)</p> <p>⑬ 異学年交流も出来にくいよねえ。そりや無理ですよ。時間交流で引率してきて、来るだけでベトベトですよ。そこへ交流、もうどうも無理やと思います。(M校長)</p> <p>⑭ 特別に合同で行う必要性は今とこ無いねえ。全然、文化が違う。運動会のやり方が違う。(M校長)</p>

Itでは、小中共に45分授業で行い、交流は行い易かった反面、低学年の運動量が減るとい問題(表9<1>)、7時間授業が入る<2>、時程調整の負担があり<3>、Toでは、小中教師の行き来を考え頭を揃えている代わり長い休み時間が無い<4>。チャイムの問題があった<5>。Taでは、昼休みが一緒になっている為に、入り混じって遊ぶ<6>。また、同じ少人数であるが、Ttと違い、階が異なることや、休憩時間の長さ、ノーチャイムが影響して、中学校の授業の邪魔になるようなことは無い<7>。Ttの掃除の時間の一致と同じで、昼休みと掃除の時間が一致していることが、縦割りや、交流を行い易くしている要素であることも分かる<8>。Okでは、施設が離れている為の、時程の調整が行われている<9>。移動の困難を踏まえ時程をやりくりし、図1のように設定している<10>。Kkでは、中学生も小学生の45分に合わせたことから、7時間授業が生じている<11>。表のように、50分授業だと教員の行き来がしにくく時間割がうまく組めない為に、45分授業で行っているが、見直しも考えている<12>。元々の中学校の授業計画が50分計画されている為に、5分短くなると、最後のまとめの部分が行えないということが出てくる、7時間授業になることで、クラブ活動の時間や会議の時間が遅くなる等が生じている為、勤務時間内では仕事が出来なくなる等、教員の負担も生じている<13>。また、Kkは安全面を考慮して、時程をわざとずらしている<14>。校庭の使用に関しては、中学生の部活動に使われる為、放課後の使用が制限されている面がある<15>。

表9. 運営・活動の特性

小中一貫・連携教育校の学習活動	
<p>■時程調整■</p> <p><1> 昨までは全学年45分授業で全く同じタイムスケジュールで生活してました。こうすることで交流はやりやすいですよ。その代わりに低学年の子供たちは10分休みしかないと、20分休みが無いから運動量が減る。(Ok校長)</p> <p><2> 上の方は、45分授業ですということは、授業時数の39時間はめったにどうするかっていうと45分だと7時間授業入ってました昨年度までは。(Ok副校長)</p> <p><3> 時間割を途中で組み替えて、ある期間、6週間とか8週間とか、本当は週に1時間の授業を2時間にする、っていうことを、色んな教科組合せをやって、年間のトータルで授業数を確保する。結構細かいこと色々。これらを、調整していつかは結構大変。(Ok副校長)</p> <p><4> 上の先生が小へ行きやすい様に、頭を揃えてるんですよ。その代わり小学校は、全部15分の休憩。他の小学校やったら10分、間に20分とか25分とか長い休みがありますよ。それは無しで全部15分です。(To教頭)</p> <p><5> うちは最後鳴らなくて。最初は最後鳴らしてたんですけど、ほんなら、頭が鳴って、45分目に鳴って、50分目に鳴るんですよ。中学生が落ち着かへんのです。ワンフロアやから聞こえるんですよ。もうスタートして直ぐに、中学校の先生からクレームが出て、最後の5分がもう授業でかへんと、中学校的にはやっぱ50分、最後の5分をまとめをしたい。だからなんかかなへんかいうことで相談してもう終わりは無ししよう。時計を見て教科担任の判断で終わるようしよう。それでなんとか収まるように。(To教頭)</p> <p><6> おお休みは一緒になってますので運動場に、掃除の時間とか、1年生の子が9年生の子が今日はサッカーして遊ばふあとか言うて一緒に。屋外運動場で1年9年生も入り混じって一緒にサッカー。(Ta校長)</p> <p><7> 基本的に階は階が違いますが、外で一緒に遊ぶのは屋外とか放課後とか、間の休み時間は、ほとんど移動するか校舎内か。全教室休み時間5分です。(Ta校長)</p> <p><8> 休みは同じなんです前期の子が給食の準備が手開けるいうことで早から時間とってるんですけど、終わりは一緒。掃除も縦割りなん時間一緒で、5時間目の始まりは一緒です。(Ta校長)</p> <p><9> デメリットは、やっぱりその教員が、授業するのに行き来しないといけない。図工専科にしても、4年授業終わりました。次年授業という時にそのわずかな休み時間、移動するわけです。雨の日も風の日も。その辺が時程で、時程をやりくりしたりとかはあります。(Ok副校長)</p>	<p><10> うちの2時間目が終わったところからは10時10分です。で向こうの3時間目が10時40分から始まるので、30分間あれば、移動プログラムの準備に、で自分はちよつと休める。で去年はもうちょっと移動の時間が無かったのが嫌しかったですね。そういうことで時程も。(Ok副校長)</p> <p><11> 小学校の45分に合わせる、中学校も45分になっている関係で、中学校は7時間授業しないといけない。元々は中学校は50分授業なんですよ。だから45分授業にするって普通28分間、6週間とか8週間とか、本当は週に1時間の授業を2日して、それでなんとか、文科省が言う授業時数を確保するっていうことにしてるんですよ。(Kk教頭)</p> <p><12> 小学校が、2時間目と3時間目休憩時間が20分あるんですよ。一応中学校は、休憩時間すべて10分休憩なんです。これ調整しないと、時間割がずれてくんですよ。ずれて困るのはなぜかいうと、中学校の教員が小学校に授業に行ってる関係で、校時がうまく合わないといけないですよ。それで合わせてる。50分にしてしまうと、小学校と中学校の時間割がなかなか組めないの、いうかたちで今のところは45分にしてるんですけども、まあこれについてはまた見直しをして、やっぱ中学校も50分やらなあかんかな、というこに変えようかって言ってますけども。(Kk教頭)</p> <p><13> 45分授業に中学校もしているということもあって、元々中学校の授業というのは、50分で大体計られるのが、5分短くなることは、やっぱり元々の流れよりは、なんかどうかってを縮めなくちゃいけないということが出てくるので、最後のまとめの部分が、どうしようもない、出てきたりもしますから。そういう意味では、色々工夫をしなくちゃいけないって、そこでまた、時間数がね、7時間になってくることによって、学校全体でもね、クラブ活動の時間が短くなった。会議の時間が短くなった。ということもあって、勤務時間の中だけでは、仕事が出来なくなってきたりしている部分もやっぱり出てくる。(Kk教頭)</p> <p><14> 校庭は、中学生と小学生と一緒にやるとやっぱ怪我が起きるんですよ。ですからお昼休みも、小学校の子供たちが遊ぶ時間と、中学校の子供たちが遊ぶ時間は、ずれています。で、図書室の使用時間もずれています。(Kk教頭)</p> <p><15> 中学校で、放課後も遊びたいんやろうけども、中学校は運動部の部活動があったりとして、それ使えないで、結局小学校へ戻ることはないですよ。(Kk教頭)</p>

5. 小中一貫・連携教育校における影響と変容

中1ギャップを埋める目的の元、設置されていても、今度は9年間ということへの厳しさや新たな問題(表10<1>×<2>)、学年区分で校舎を分けている場合は、小5(小6)ギャップが新たに生じる可能性も否定出来ない<3>×<4>。一方で、既存校舎を活かした連携を行っている学校も、連携の難しさを感じている一方<5>、連携の良さも感じている<6>。文化の違いや、忙しさから、小学校と中学校は別の方が楽であるとしているが、児童生徒を中心とした話をお互いに行うことに対しては意義を感じている。また、合同会議等で学校の外でも、コミュニケーションを図り、交流するようにしている<7>。施設が分離していても、教職員が乗り入れることで、児童生徒との関係も変化していく可能性がある。

表 10. 影響と変容の特性

小中一貫・連携教育校の影響と意識	
<1>魅力だけじゃないですね、やっぱり小中一貫っていうのは9年間かと思う。変えられない自分。きついですよね。うまくいってほしいけど。(O<副校長)	<5>無理していったら、その家のお仕事もあるし、採点もあるやろし、教材研究も一杯ある中でね、どうやって連携していくかってところが、やっぱり、難しいです。(M<校長)
<2>小の場合はあんま変わらないんですけど、向こうの校舎の中学校の場合は、増えたり減ったり。1つはその正直言って、9年生の子供たちの、生活の様子見てて、あそこには行きたくないわって場合もあるじゃないですか。正直な話、そういうこともありました。(O<副校長)	<6>離れてるから、もうそこそこで終わって。ほな、こないで、しか出来ませぬえん、言うことが出来るからええ。うん、あ、の、つかず離れずで。あまりにも、密着、こう密着したら、なあ。(M<校長)
<3>まあ、どっかかなんかね。(O<副校長)	<7>たまには合同で会議したり。今年は飲み会やったかな。ほんで行ったりな。うん、そりやその中で、話出てくるから。子供をだして変な言い方やけど、子供を中心に、その子供の話をお互い出来るやないですか。(M<校長)
<4>まあ施設が綺麗だということもあるんですけどね。公立の学校で、これだけの施設があるところは、そうなので、小よりもこちらの方が、綺麗なんですよ。だからなんです。(O<教頭)	

6. 結論

小中一貫・連携教育校は、時代背景に上手く噛み合っており、統廃合が関係する際には、小中一貫校を付加価値として用いることで、合意を得易く、今後、増加することも考えられる。小中一貫・連携教育校になったことをきっかけに、地域性に関係なく行っている活動や、小学校と中学校が交じろうとする際に、元々の活動の違いから不都合が生じる。こういったことが、児童生徒にしわ寄せとして及ばないよう気をつける必要があり、先に進むことのみには気を取られ、あまり見直さずに来ていたことから、今一度整理することが必要である。また、既存校舎を活かしながらであっても、児童生徒の情報共有を介し、小学校の教員と中学校の教員が、お互いにコミュニケーションを図ることに関しては意義があると考えられる。児童生徒を介することで、今まで交流しなかった学校同士に、より良い連携の関係が築ける可能性がある。施設が分離していても、教職員の乗り入れによって、児童生徒との関係も良い方向へ展開する可能性がある。



図1 小中一貫・連携教育校の日程編成の特性

討 議 等

◆討議 [梅宮典子教授]

ヒアリングをされたのは、学校関係者で校長先生とかに聞かれているということですが、他に例えばPTAや子供にはされていない？

◆回答：今回は、校長や教諭や教育委員会にヒアリングを行ったわけですが、主に設置段階、プロセスの方に重きを置いていた為に、そういった対象で進めていきました。

◆討議 [梅宮典子教授]

なんかこう、ざっと見ますと、デメリットばかりが強調されている感じなんですけど、多分運営側としては、新しいことやりにたくないっていうのがまずあるんじゃないかと思うんですが。偏っているんじゃないかなと思うんですが。

◆回答：そうですね、デメリットの方を強調している部分があるんですけど、施設一体型が特に児童生徒の異学年交流が起り易いとか教員の乗り入れがし易いとか、そういったメリットの方を強調されていたという前提を踏まえ、今回はこういったことを行いました。

◆討議 [宮本佳明教授]

ちょっとちゃんと読み込めてないんですけどね、デメリットの中で、学年のアイデンティティとか、記憶に関わることね、要するに例えば、3年生の時や4年生の時や、ちゃんと思い出があるわけじゃないですか。そういったものが希薄化するんじゃないかって。そういった問題を指摘した人っていなかったんですか。9年間っていうのが僕は1番問題なんじゃないかって、メリハリがつかないんじゃないかって。

◆回答：分離型の興本扇学園さんとかは、9年間という長いスパンがやっぱりあるということで、区切りをつけるということはおっしゃっていました。

◆討議 [宮本佳明教授]

運営の問題じゃなくって、やっぱ空間の問題が大きいんじゃないかって。人間の記憶って空間と一体に

なっていると。学年が上がった時に、ガラッと変わった、空間の雰囲気、そういったものは。多分とどろみ辺りでもあれは自分がいくつの記憶だったのかって覚えていないんじゃないかなと。そういった心配を指摘した、そういった先生っておられなかったのかって、そういう質問なんですけど。そこが僕は1番問題なんじゃないかなって。

◆回答：そういったものは無かったかと。

→と申しましたが、田原小中学校の例が回答になるということで、下記に記載致します。

中学年を過ぎると元ある校舎に戻ってくる、どちらの校舎も経験できるようにという意図があるのと、9年間はすごく長い。6・3制なら区切りが大きくあるが、この学校では区切りが2回ある。前期から中期になった際、校舎が変わるのは、中期学年になったなと意識させるように。また、8・9年になったらまたこっちにもどってくるので、小さなステップを設けているというか小さな段差はおいている。

◆討議 [内田敬准教授]

北村さんの研究の研究成果とあわせて2人の研究成果として言えることってないですか。対象が重なるところもあるわけですよね。

◆回答：逆の視点からみたということがございまして。少しそういったことは、今は。

→ソフト面もハードの制約を受け、ハード面でもソフトの整備が重要だということがわかり、長期的な視野を持った施設計画を行わないといけないということが、北村圭亮氏の作られ方からの研究と、私、宮武の実態調査の研究によって明らかになりました。

◆討議 [内田敬准教授]

最後の頁に時程編成の特性っていう図が載ってて、色づけもされているんですけど。何か普遍的なものは。

◆回答：小学生と中学生の時程をあわせることで生じている問題をここにはあげておまして、普遍的というのは、ちょっとまた。

→この調査対象数では、普遍的なものという部分ではやはり回答しにくいのですが、児童生徒の交流・連携という点においては、小中一貫教育における小規模校では、昼休みと清掃の時程等を合わせること

で縦割りの活動にも繋がり、実際に児童生徒の交流が起っていました。しかし大規模校では、児童生徒の交流・連携という点よりも、学習面での向上に特に主眼を置いており、安全面への危惧からわざと児童生徒が交わらない様に昼休みと清掃の時程等を組んでいる学校もありました。教員の連携や児童生徒の連携、学習面での向上や精神面での向上、どこに主眼を置いているかが時程編成に表れているのではないかと考えられます。